

「最も小さな人にしたのはわたしにした」 マタイの福音書 25 章 31 節～46 節
 「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。
 あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひ
 とりにしたのは、わたしにしたのです』 マタイ 25 : 40

仲森文穂

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

- 今日の箇所からミケランジェロの「最後の審判」の絵を思い起こされる方もおられること
 でしょう。およそ400人ほどの人々が描かれ、中央に復活されたイエス・キリストがたちは
 だかり、その右側には天国へ行く人々、左側には地獄に落ちる人々の姿が描かれています。
 イエス様は愛に富んだお方ですが、天使たちを従えておいでになる再臨の時には、世界を裁
 く力をもっておいでになる。そんな偉大なキリストの姿も忘れずにいたいと思います。
- 裁きの日、右と左の「分かれ目」はどこにあるのでしょうか。34節以下を見ると、主が右側
 の人たちに言います。『わたしの父に祝福された人たち。御国を継ぎなさい。あなたがた
 は、空腹の私に食べ物を与え、渇く私に水を飲ませ、旅人の私に宿を貸し、裸の私に服を与
 え、病気の私を見舞い、牢屋の私を訪ねてくれた』と。すると人々は驚き、「主よ。いつ私
 たちはあなたにお会いし、それらのことをしたのでしょうか」と。すると、主は答えます。
 「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最
 も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」と。つまり、右側に分けられた
 人々は隣人への愛を実践した人々だということです。しかも隣人とは飢えている人であり、渇
 いている人であり、宿のない人であり、裸の人であり、病気の人であり、牢屋にいる人なの
 です。
- 実はこの箇所、第一義的には、教会に集う人たちの助け合いを鼓舞する意味があったと思わ
 れます。というのは、マタイ福音書が書かれた時代、教会への迫害が小規模ですが、すでに
 起こっていました。迫害された人々はまさに「飢え、渇き、家をなくし、裸、病気、投獄」
 といった苦難を味わいました。助けの手を差し伸べるのは、自分も仲間だと表明するよう
 なもので身に危険を招く。ですから、助けるのは勇気が必要でした。だけど、われわれは助け
 合おうではないか、イエス様のあの愛をお互いに実践していこう、そうすることをイエス様
 も願っておられるはずだ、この箇所にはそんな思いが込められている、と言われていま
 す。
- しかし、本来のイエス様の広く深い愛から言えば、この助け合いを教会内に限る必要はない
 ように思われます。皆さんはバン・ダイクが書いた「もう一人の博士」の物語をご存知でし
 ょうか。彼はその助け合いを広い世界へと広げています。強調されているのは、日常生活で
 出会う隣り人の中に、イエス・キリストはいたまうということです。しかも、助けを必要と
 している隣り人の中にです。私たちが隣の人にしてみればさし上げられることは、たかが知れてい
 ます。だけど、日常生活のひとこまひとこまが多分大事なのです。教会の仲間への愛、また
 隣り人への愛、たとえそれが小さな愛に過ぎなくても「それは私にしてくれたことなのだ」
 と、キリストは喜んでくださいます。「主よ、小さな愛の業を行う勇気と知恵をいかなる時
 にも私に与えてください」と祈りつつ、今週の歩みを始めていきたく願うものです。